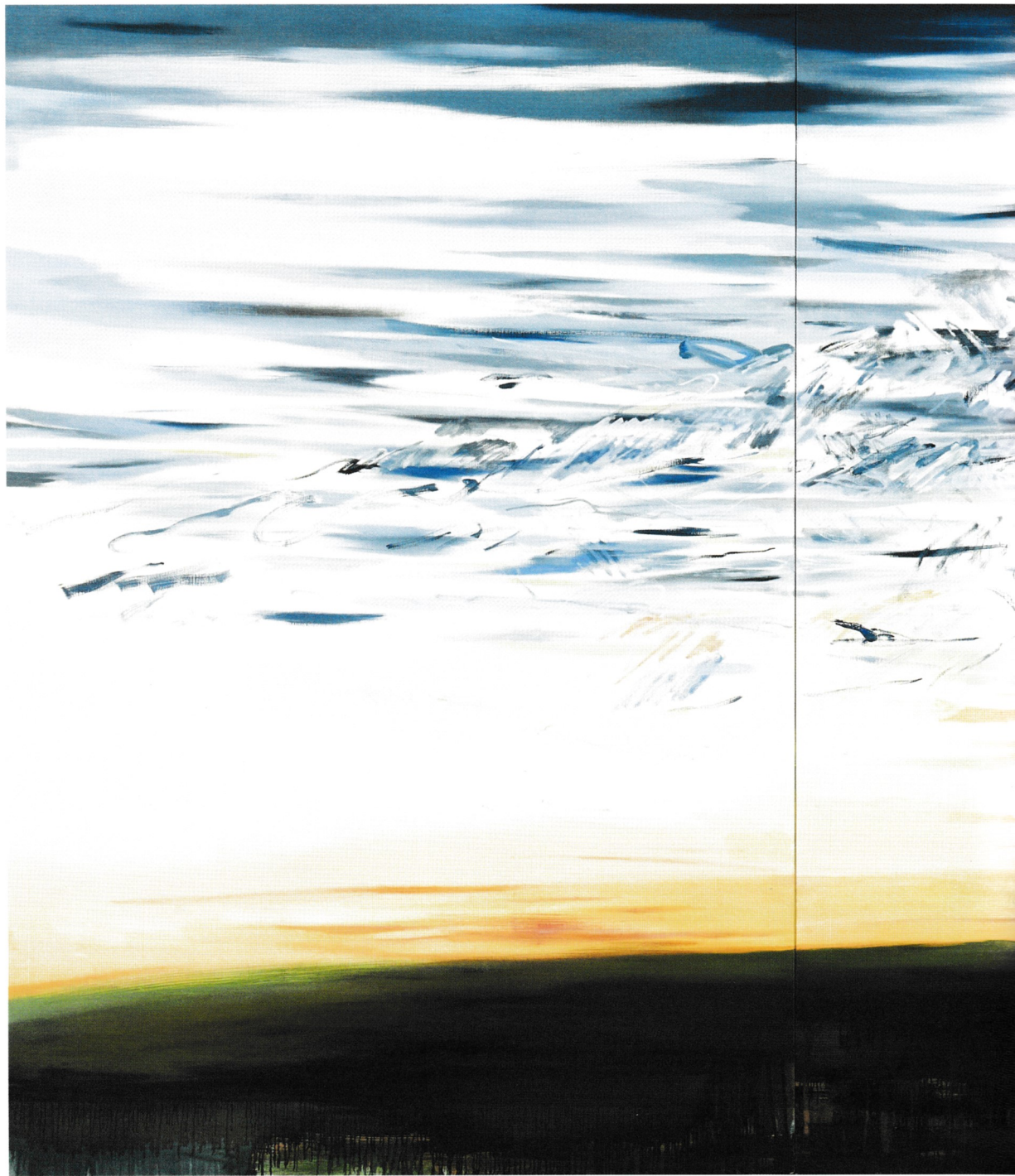




三瓶玲奈
Mikame Reina

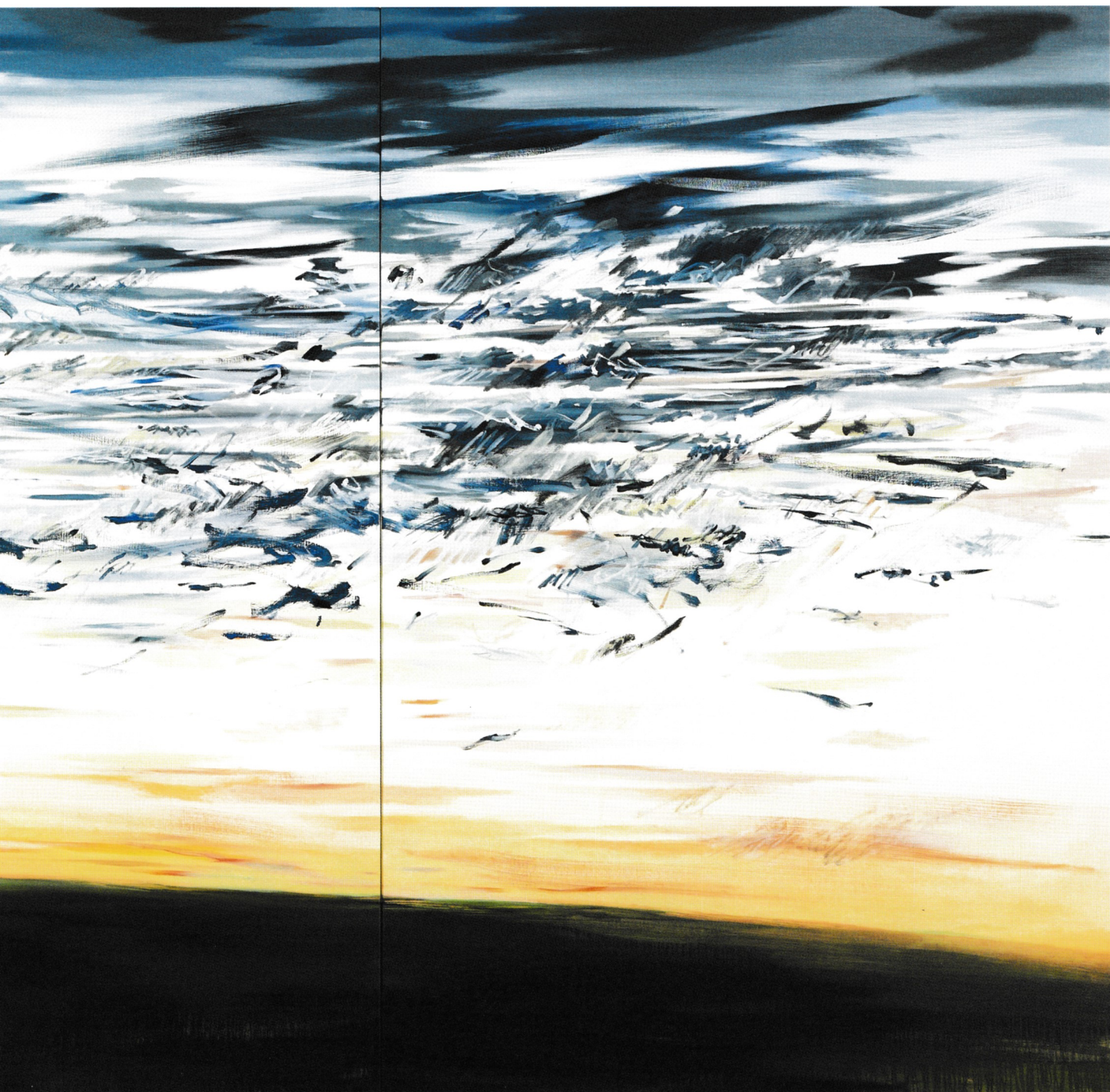
どこまでも広がる空と大地、そして地平線。ほんの少し前まで、暗闇に包まれていたその場所が、日の出とともに闇が光になる瞬間。

三瓶の絵画で特筆すべきは、筆致とレイヤーの関係性だ。近づいてみると、一見白い絵の具で描かれたように見える部分は、実は塗り残しの白であり、それがまるで筆致であるかのように丁寧な何度も筆が入れられている。三瓶の描き方は、実在する筆致によって架空の筆致を生み出し、同時に架空のレイヤーも生み出される。そうすることで、画面に軽やかさと複雑さが生まれ、さら

に作品自体がまるで発光しているかのような不思議な効果をもたらす。

透明で澄んだ日の出前の空の様子を、レイヤーを操作することで見事に表現し、一方で絶対的な重力を有する大地は、絵の具の層を何層にも重ねて描く。空と大地という当たり前の自然の風景を、しかし三瓶にとっては描かざるを得なかったその瞬間を、軽やかさと重厚さ、光と闇を混交することで現前させようとする。

——野中祐美子(金沢21世紀美術館アシスタント・キュレーター)



1992年 愛知県生まれ

2017年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了

主な個展

2012年 「トーキョーワンダーウォール都庁2012 三瓶玲奈」

東京都庁第一本庁舎3階南側空中歩廊（東京）

2013年 「TWS-Emerging 203 三瓶玲奈」

トーキョーワンダーサイト本郷（東京）

2016年 「投影」 Yutaka Kikutake Gallery（東京）

2017年 「project N 69 三瓶玲奈」東京オペラシティ

アートギャラリー4Fコリドール（東京）

2018年 「水の重さ、滲む光」 Yutaka Kikutake Gallery（東京）

2020年 「色を見る」 Yutaka Kikutake Gallery（東京）

主なグループ展

2015年 「アートアワードトーキョー丸の内 2015」丸ビル1階

マルキューブ（東京）

2019年 「アーツ・チャレンジ2019」愛知芸術文化センター（愛知）

「Practice_01: 線を引く」EUKARYOTE（東京）

受賞

2012年 「トーキョーワンダーウォール公募2012」

トーキョーワンダーウォール賞

Landscape

Landscape

油彩、カンヴァス

Oil on canvas

194.0×390.9cm



『The Vision of Contemporary Art 2020』 exhibition catalogue,

The Ueno Royal Museum, 2020 , pp.76-77